

久留米の自然



久留米の自然123号 2015年1月1日

ヒトスジシマカ 双翅目カ科 学名 *Aedes albopictus* 写真 国立感染症研究所衛生昆虫写真館より

デング熱の国内感染

米田 豊

旅行者が海外でデング熱に感染し、帰国後に発症する例は毎年約200件報告されているが、昨年70年ぶりに国内感染が確認された。東京の代々木公園での感染を始めに、別の公園でも感染が見られ、9月30日時点で患者は17都道府県に及び、150人となった。媒介蚊の調査結果から感染経路が複数あり、密かに入り込んでいたと思われた。1942年東南アジアから帰国した船員によって持ち込まれ、1945年まで毎年西日本で流行を繰り返したデング熱は、患者総数が100万人に及んだと言われる。

デング熱の病原体はウィルスであり、媒介蚊はネッタイシマカやヒトスジシマカである。人から人に直接感染しない。ウィルスを持った蚊から感染されると2~15日の潜伏後、悪寒、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛、発疹などの症状が出る。多くは1週間程で回復するが、まれに出血症状を示し、重症化して死に至ることがある。デング熱に対す

るワクチンはなく、有効な治療薬もないので、予防はもっぱら媒介蚊の発生対策と蚊に吸血されないようにすることである。

媒介蚊のヒトスジシマカは成虫の体長が約4.5mm。黒色の体に白い縞がある代表的なヤブカであり、胸背の中央（正中）に白い1本の縦条があるので名前の由来である。幼虫の発生源は狭い水域で、墓地の花立、用水桶、空き瓶、空き缶、タイヤ、詰まった樋などの人工容器や樹洞、竹の切り株。卵は黒色で、卵で越冬。関東以西に普通種で、東洋区やオーストラリア区にも広く分布する。成虫は飛翔活動が敏速で、昼間木陰などで活動するが家屋内にも進入する。

蚊が媒介するその他の重要な感染症（病原体）としては日本脳炎（ウィルス）、マラリア（原虫）、フィラリア（線虫）が挙げられる。海外へ旅行される方は十分感染症に注意し、感染が疑われる場合には速やかに医療機関を受診して欲しい。

郷土の樹木(21)

マンリョウ 猪上 信義

ヤブコウジ科の小高木で、背丈30cm~100cm、茎は灰褐色で直立し、上の方で数個に枝分かれます。葉は互生、長楕円形で、長さ7~15cm、幅2~4cmで無毛、葉柄は8~15mm、葉を透かすと黒い点が見え、波状に縮れた鋸歯の間にも腺点があります。

花は7月頃、散形又は散房状で、花柄は1~1.5cm、花弁は白、直径8mmで5裂し反曲します。雄しべの黄色い葯が槍状に尖り、その中心から細長い雌しべが飛び出ます。

果実は球形で直径6~8mm、鮮紅色(稀に白や黄色)に熟します。

本州の関東以西、四国、九州、琉球の常緑林内に生え、朝鮮、中国、台湾、東南アジアなどにも分布します。生態学的にはヤブツバキクラス(常緑樹林帯)の標徴種(その地域の代表的な植物)とされ、久留米市でも高良山をはじめ、各地で見られます。



マンリョウ

葉が愛らしく、実も美しいことや、縁起のいい名前を持つことなどから、古くから愛好され、庭木や鉢物としてよく栽培されています。特に江戸時代の寛政年間(1789~1800)には大流行し、縮れた葉、赤い葉、小さな葉など多くの品種や奇形が作られ、高価で取引されたそうです。

今日でも**センリョウ**(センリョウ科…このシリーズ19参照)とマンリョウ、**アリドオシ**(アカネ科の小低木で、谷沿い常緑林内の岩場などに生え、葉と葉の間に細長い刺がある)を寄せ植えて、「千両、万両、有通し」と縁起を担いだり、万両、千両、百両(=**カラタチバナ**…マンリョウと同じヤブコウジ科の小低木で、葉がより細長く、腐葉土に富んだ常緑林内やスギ植林地などに生えるが、県内では個体数が少なくなり、絶滅危惧植物(ⅠB)に指定されている)、十両(=**ヤブコウジ**…同じくヤブコウジ科の小低木で、こちらは背丈10~20cmとさらに小さく、やや乾燥した常緑林内に群生する。日本の樹木の中では近縁の**ツルコウジ**と並んで一番背丈が低いと思われる)、一両(=**アリドオシ**)と並べて、風情を楽しみます。これらはいずれも常緑小低木で、彩りに乏しい晩秋から冬に赤い実をつけるところが共通しています。

これらの呼び名についてはカラタチバナを中国では「百両」というところから、これとの比べて日本で千両、万両などという縁起のいい名前を、似た形の植物に当てたというのが通説です。ちなみにマンリョウの中国名は「朱砂根」、センリョウは「草珊瑚」、ヤブコウジは「紫金牛」、アリドオシは「虎刺」とされています。

またそれぞれの花言葉(いろいろの説があり、確定したものではない)はマンリョウは慶祝、センリョウは富貴、カラタチバナは財産、ヤブコウジは明日の幸福とありますが、いかにも後から取って付けたような言葉が並びます。

またマンリョウには葉を土に挿すとそこから発根したり、果実が枝に付いたまま根を出すなど、変わった性質があります。

最後に長年栽培していると、茎が伸び上がり、下方に葉がなくなりやや不格好になります。その時には新葉が出る前に、任意の高さで茎を切ると、そこから枝が再生して、1~2年後には下から枝葉をつけ花や実を楽しめる株に仕立て直すことができます。ぜひお試しください。

高良川流域のキノコ(その24)

角 正博

4.3. ヒトクチャタケ(一口茸) *Cryptoporus volvatus*

ヒトクチャタケは、マツ林があるところでは、あまり珍しいキノコではありませんが、高良川流域では、ほとんどみることはありません。かつては高良川流域の尾根にもアカマツ林や植栽されたアメリカ産の三針葉のテーダ松の林がありました。しかし、生活の変化で松葉掻きがなされずに放置され、アカマツ林は今やほとんどコジイ林となってしまいました。その結果、高良川流域でヒトクチャタケを目にする機会は、ほとんどない状態となっています。

このような中で高良川流域では、明星山の尾根および高良山毘沙門岳ツツジ公園南口の枯死したアカマツ林の樹幹に、老菌が群生していたのを見ることがあります。子実体は栗の実に似て丸く、上面はニス状光沢を帯びています。下面には成熟すると一つの丸い穴が開きます。ヒトクチャタケという名前もそこに由来します。独特な魚の干物臭に似た臭いを発するので、近づくとすぐにわかります。筑後地区全体で見ると、耳納山地北麓側の兜山、

大善寺の御塚公園、八女市山内の童男山古墳、大牟田の甘木山公園および焼石山公園などでヒトクチャタケに出会いましたが、いずれも勢いがいか、枯死間もないアカマツの幹に発生していました。枯死したマツを最初に分解して、次の分解者に引き渡していく役割を担っているようです。



ヒトクチャタケ

高良川流域の地衣類(その13)

角 正博

4. ヒメレンゲゴケ(姫蓮華苔) *Cladonia ramulosa*

ヒメレンゲゴケもハナゴケ科ハナゴケ属の地衣類です。ヒメレンゲゴケは、ハナゴケ属の中ではヤグラゴケ類にまとめられます。このヤグラゴケの仲間は、「①子柄が主に単一棒状で灰白色～淡緑色で、穿孔を欠き、子柄の先端に小型の盃をつけること(時には盃縁から伸びた枝に子器をつける。)。②淡褐色の子器を持つこと。」を特徴とするグループです。

その中で、ヒメヤグラゴケなど盃縁から伸びた枝が数層のみごとな櫛状になるヤグラゴケの仲間は、奥八女地方でまれに見ることがありますが、高良川流域では見ることができません。高良川流域で見ることができるのは、通常櫛状になることが少ないレンゲゴケの仲間です。県内の低山地に生育しているレンゲゴケの仲間は、ヒメレンゲゴケ(姫蓮華苔) *Cladonia ramulosa* とタイワンレンゲゴケ *Cladonia fruiticulosa* があります。外観からはほとんど見分けることができませんので、呈色反応で

調べます。髄層呈色反応がK-、P+橙赤色で、フマルプロトセトラール酸とホモセッカ酸を含む場合はヒメレンゲゴケ、一方、髄層呈色反応がK-、P+黄色で、



ヒメレンゲゴケ

ソローム酸とウスニン酸を含む場合はタイワンレンゲゴケとなります。両者の形態に顕著な違いは現れ

ないと言われていますが、研究者の話では、ヒメレンゲゴケは形態の変異が大きく、やや大型になることが多い一方、タイワンレンゲゴケは小ぶりなことが多いそうです。高良川流域で見えるものは、形態的にはヒメレンゲゴケにあたるものが多いようです

生き物に魅せられて 61

タマバチの産卵の巻き 松永紀代子

庭のイヌビワの葉も黄色くなり、コナラの葉も風が吹くとハラリと散っていく。2012年11月も終わりに近づいた朝のことだ。

日の当たったコナラの枝先の冬芽の先がキラッと光った。カメラで拡大、ああ、翅のあるタマバチだ。光ったのは、丸く赤みのある茶色の腹部だった。これまでも季節季節でいろんなタマバチが産卵しているのを見ているが、この時期は始めてだった。

そのままファールで観察。ほ～、体に毛が生えている……。触角の節なんかも良く見える。産卵管は付け根まで、しっかり芽に埋め込んでいた。ポワンポワンと定期的に腹部が動いているところをみると、卵を送りだしているのだろう。少々枝を動かしてもまったく動じない。否、今はとにかく卵を産み付けることしかできないのだろう。命の受け渡しの現場に遭遇すると、何か心がいっぱいになる。

どんな虫こぶになるのか見てみたい。そのつど印をつけているが、これまでわかったのはナラメカイメンタマフシから育ったハチが作った葉の裏につく丸い虫こぶだけだった。産卵しても、上手くいかないことも多いのかもしれない。今回もとりあえず目印をつけておいた。

キッコ、キッコ、コッキョ……。イカルたちが上空を通過していった。今日は良く晴れるらしい。

福岡県新宮沖相島の石積古墳群その他

久留米市文化財専門委員 高山美子

新宮港から渡船で約20分。玄界灘に浮かぶ相島に初めて上陸し、島を半周した。真珠養殖で近年有名になっているが、石積古墳群が数多く残されていることはほとんど知られていない。大陸からの使者を迎えていた館がその昔相島にあったが、被葬者は誰か、この地の海岸にいつの頃から存在しているかはまだ解明されていない。石ばかりで築かれて海風にさらされている風景は、海洋民族の祖先崇拝を想わせる。



① 福岡県新宮沖の相島石積古墳群

味清水神社のクロガネモチに出現したキノコ

天然記念物指定にされていたクロガネモチが倒れ養生の為ビニールや麻布で包んでいたが、キノコ類がそれを破って表面に出現していた。朱色や白っぽいもので、傘のような15cmくらいの突起した部分もあった。



② 久留米市朝妻味清水神社境内の旧天然記念物クロガネモチの樹が倒れ樹皮にキノコ類が出現している

アサギマダラの撮影

福岡県糸島市二丈鹿家1409 ギャラリー樹庵の庭で幸運にもアサギマダラがフジバカマの花の蜜を求めて来ていた。ここは私の弟たちの住まいでいつも花が咲いている場所である。さっそく接写と動画で撮影した。人間を全くこわがらず姿も羽も美しかった。以前(2008年8月22日)朝倉市の十石林道で撮影した時もフジバカマの花の上であった。



③ 福岡県糸島市二丈鹿家 1409 ギャラリー樹庵のフジバカマの上で

写真はいずれも高山美子撮影
撮影年月日

① 2014年2月28日

② 2014年10月10日

③ 2014年10月16日

ひととき

動物笑い話

その67

ムササビ

米田 豊

久留米市の高良山にはムササビが生息しており、参道沿いのスギの大木には登っている痕跡が見られる。また、かつて吉見嶽につながる自然歩道沿いの木々に九州大学が調査研究用の巣箱を設置したこともあった。しかし、夜行性のためその姿を見かけることは希だ。スギの大木が多く生えている所である日の黄昏時、若い個体が大木の高所から飛び立ったが、たくさんある木に目移ろいしてしまい、着木態勢が整わぬ前に幹にぶつかって、ズルズルズルと落下した。その光景を巣穴から見ていた長老が「最近の若者は飛び立つ前に目標を立てていない。[木(気)が多いとムササビも木に当たる]だね。情けない。先日も若者達が飛距離ばかり競い合って、巣穴に戻れなかった馬鹿者がいたよ」と嘆いた。

* げっ歯目のムササビ科に属し、体長が約60cm。前脚と後脚との間の皮膜を拡げてグライダーのように滑空し、時には400mも飛ぶ。

い、お腹も満たされて、楽しく観察会を終了しました。



キノコの同定の様子

参加者の感想文

荒木美帆 久留米信愛女学院

たくさんのきのこを見ることが出来、とても楽しかったです。暑かったけれど探して、興味深いきのこを見つけたときは嬉しかったです。

林田若葉 久留米信愛女学院

今日のきのこ探検は、しいたけに似ているきのこを見つけてことができました。大きいきのこは虫に食べられてくさっていました。おもしろかったと思います。

江崎優佳 久留米信愛女学院

初めてキクラゲが木に生えているのを見ました。いつも食べているキクラゲとちがって、乾燥していて、かれた木の皮みたいでした。

中嵐萌衣 久留米信愛女学院

よく料理ででてくるような有名なきのこしか知らなかったけれど久留米にもきのこがあったとはおどろきました。普通は見られないようなきれいな色のきのこやめずらしい形のきのこなどとても興味深かったです。

洲上沙希子 久留米信愛女学院

今日は、沢山のきのこを見つけてことができました。オレンジのきのこや、真っ黒いきのこがありました。また、かさの下がしいたけのようにしましまになっているものや、穴みたいにブツブツしているものもあり、知ることができました。私たちが住んでいる身近な山の中にも様々な種類のきのこがあることを知ることができて、良かったです。

例会報告

第414回例会

高良台キノコの自然観察会とキノコカレーの会

丸山 由紀子

毎年おなじみの例会であるキノコの観察会ですが、今年は少し時期を変えて、7月の27日に行いました。1か月遅れになり、今までとは少し違う種類がみられるかもという予想通り、以下の35種類が観察されました。毎回参加のキノコにかけては「つわもの」の方から、初参加の中学・高校生まで22人の参加がありました。キノコの第一人者である金子周平先生を今年も講師に迎え、和やかな雰囲気できノコハンティングを楽しむことができました。カサの裏側がスポンジ状のイグチの仲間や、キノコのイメージとはかけ離れたニセシヨウロの仲間など、金子先生の説明の度に参加者一同「なるほど…」と納得しながら、キノコの世界の奥深さや面白さを体感しました。観察の後は、上津小学校近くの福山郁子さん宅で橋田会長が準備したおいしいキノコカレーを味わ

徳吉遥香 久留米信愛女学院		5		シロホウライタケ
今日は、赤や白、黒、オレンジなどたくさんきのこを見つけることができました、はじめて見るきのこもありました。色や形が似ていてもよく見ると違うところがあっておもしろかったです。		6		ホウライタケ属
		7		アカチシオタケ
		8		クヌギタケ属
中野あい 久留米市山川町		9	テングタケ科	コテングタケモドキ
いろんなきのこがあってとってもすごかったです。へんなきのこや、まっすぐなきのこがたくさんありました。きのこカレーがおいしかったです。		10		へビキノコモドキ
		11		ガンタケ
大木柚佳 久留米市上津町		12		カバイロコナテングタケ
きょうはとってもたのしかったです。ともだちもできまし、いろんなきのこがありました。たのしかったです。		13		ツルタケ
		14		カバイロツルタケ
大木恭子 久留米市上津町		15		ヒメコガネツルタケ
中、高、学生さんも6人加わり、まるで学校気分。キノコを見つけると大歓声があがり、名前をきいてたくさんきのこにめぐりあい、うれしい一日でした。		16	モエギタケ科	ニガクリタケ
		17	フウセンタケ科	アセタケ属
		18	イッポンシメジ科	シロイボカサタケ
古賀良人 久留米市藤光		19	イグチ科	キイロイグチ
自宅の近くの森にこんなに豊かなきのこが生きていることに驚きました。		20		アシベニイグチ
		21		キニガイグチ
帆高美子 久留米市津福本町		22		ミドリニガイグチ
自然にふれる事が少なくなっていた時に古賀信夫さんに今日の事を教えていただきぜひ参加したいという事で実現しました。ワクワクしながら、山に入り、色々なきのこを見つけました。あざやかな色のきのこや黒っぽいきのこ、色々あり、その場その場で名前を教えてくださいましたが書くのと写真をとるので大変でした。その後はとってもおいしいきのこカレーライスを皆さんにいただき、楽しくもあり、嬉しい1日でした。次回も参加させていただきたいと思います。ありがとうございます。		23	オニイグチ科	キクバナイグチ
		24	ベニタケ科	シロハツモドキ
		25		クロハツモドキ
		26		ニオイコベニタケ
		27		クサハツの仲間
		28	アンズタケ科	アンズタケ
		29		ベニウスタケ
高良台キノコ観察会リスト 同定者 金子周平		30	サルノコシカケ科	アシグロタケ
	科名	種名	31	ハカワラタケ
1	ヒラタケ科	ウスヒラタケ	32	ウロコタケ科
2		スエヒロタケ	33	ホコリタケ科
3	キシメジ科	カレバキツネタケ	34	ニセシヨウロ科
4		モリノカレバタケ属	35	ニセシヨウロの仲間

第415回例会：筑後川観月会

雨で中止となりました。

第416回例会

ネイチャーゲームと自然観察会 古賀 信夫

第416回例会として、「ネイチャーゲームと自然観察会」を行いました。当日は当会が自然観察の指導を行い、くるめネイチャーゲームの会の方々にはネイチャーゲームの指導をしていただきました。また、今回は矢野郁子講師をお呼びして、森林つつじ公園において草笛の指導もしていただきました。植物の名前や虫の名前、参加者のみなさんはしっかりとメモに書きつけておられるようでした。特に、カツラの樹の落ち葉からはイチゴのショートケーキのにおいがしてみなさん袋に詰めて



カツラの樹の落ち葉をひろう

ので、矢野講師の指導で音がでるだけで大喜びでした。ネイチャーゲームも、額縁を使って自然の中から絵を切り取ったり、自然の中から音を聞き取ったりと不思議な体験を楽しまれたようです。天気もとてもよく充実した秋の一日でした。

参加者の感想文

金子真由美 久留米市西町

大人目線ですが、植物の名前とか、わからなかったが、ただ散歩だけではなく、季節を感じる事ができた。フィールドパターンで探しづらい所があった。天気が良く事故もなくよかった。

大木恭子 久留米市上津町

最初、登れるかなと不安でした。先生がゆっくり歩きながら植物の名前を教えて下さるので大変勉強になりま

した。また十月桜に出会えたことはうれしかったですね。ネイチャーゲームでは、四角いわくの中から景色を特定するとステキな絵になり、面白かったです。草笛で何曲もひかれたのでスゴイなと思いました。目を閉じて自然の音に耳を澄ませる時、一時の安らぎを感じました。ショートケーキのような甘い匂いのするカツラの落葉をひろって自然とふれあいとでも楽しい一日でした。

大木柚佳 久留米市上津町

くさぶえがなだったのでうれしかった。大きなやまみみずにびっくりしました。

中野あい 久留米市山川町

くさぶえがひけてとてもおもしろかったです。

中野龍星 久留米市山川町

あるいているんなこととおしえてもらって、はじめてくさぶえができました。また行けたらもう一度行きます。

平成26年度

四季の森ふれあい教室指導者連絡会議報告

橋田沙弓

7月11日、9月19日、10月6日に3回の四季の森ふれあい教室指導者連絡会議が市役所で行われました。協議した団体は福岡森林インストラクター会、久留米の自然を守る会、日本野鳥の会筑後支部、くるめネイチャーゲームの会の4団体と久留米市農政部生産流通課で平成27年度事業年度四季の森ふれあい教室事業開催方法について話合いました。

まず、この組織を四季の森ふれあい教室開催委員会と命名し、委員会規約もつくり、役員は2年間。委員長は森林インストラクター会会長、副委員長は当会会長、幹事は2名で筑後野鳥の会会長とくるめネイチャーゲームの会会長と決定しました。生産流通課は事務局となり、互いに助け合うことになりました。また、予算も明らかになります。これから新しい組織でやっていくことになるでしょう。

《行事案内》

◇ 第418回例会：

総会と環境講演会と新年会

平成27年度総会と環境講演会を行います。事前に申し込みをお願いします。

[日時]：2月1日(日)

[会場]：筑後川防災施設くるめウス

[時間] 15:00 総会 16:00 講演会「筑後川水系
金丸川・水質生態調査研究経過報告」(平成
9年～10年～24年)

[参加費]：無料 定員80名

[持参するもの] 筆記用具

※講演会終了後、新年会(17:00～19:00 会場未
定)を行います。事前に申し込みをお願い
します。

◇ 第419回例会：

筑後川・春の野草を愉しむ会

春の食べられる野草の観察会と野草・薬草の調
理をして、春の野草を味わいます。事前に申し込
みをお願いします。

[日時]：3月29日(日) 雨天中止

[集合解散場所]：筑後川防災施設くるめウス

[集合解散時間]：9:00 14:30

[参加費]：400円 定員60名

[持参するもの]：マイはし、マイ皿、マイカップ、
水筒、帽子、筆記用具

[共催] 筑後川まるごと博物館実行委員会

◇ 第6期「身近な植物ボランティア養成講座」

実施日 1月31日、2月28日、3月28日、
4月25日、5月30日、6月27日

集合解散 高良大社下宮社 9:00～12:30

※ただし3月28日は9:30 山本町柳坂バス停前集
合解散は終わりしだいくるめウス前です。

《事務局だより》

20年以上前になるうか、日田市方面の昆虫好きの警
察官の記事が新聞で紹介されていた。大学の後輩のよ
うなので一度会ってみたいとずっと思っていました。思い
がけずそのチャンスがやってきました。平成26年8月
24日の新聞紙上で、色素異変のヤマトフキバッタ(普
通は緑色が全身青色)が見つかったとの記事があり、日
田市在住で日本昆虫学会会員の佐々木茂美氏に鑑定意
見を求めたとありました。私が探していた人はこの人だ
と直感して、日田市博物館に問い合わせました。その結
果、9月に開催された大学の同窓会日田支部会の席で初
めて本人とお会いして話すことができました。ハムシの
民間研究者としてその名は日本昆虫学会でも有名な人
でした。新種の学名の中にササキが付いているものが何
種類もあるそうです。昆虫巡査としても、白骨死体につ
いた甲虫の死骸等から死亡時期を特定して行方不明者
の発見に繋がったというレジェンドの持ち主です。

(大木武彦)

HP: <http://kurumenoshizen.net> もご覧ください。

1. 会員異動

退会 飯田明 金原優子 金吉純華 篠田守
篠原道子 野瀬幸子 弥永洋子 山口淳
吉田和子

2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入
していない人は振替用紙(口座番号01750-1-40114)に
年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

3. 原稿募集

次号124は平成27年5月1日発行予定です。原稿の
〆切は4月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

4. 幹事会兼事務局会議のご案内

幹事会(定例)は原則として隔月第1水曜日の19:
30～21:30まで、えーるピア2Fで行います。皆さんも
気軽にご参加下さい。(1月10日、3月4日、5月6日)

久留米の自然

平成27年1月1日第123号
発行 久留米の自然を守る会
E-mail hashida@kurumenoshizen.net
発行者 橋田沙弓
事務局 〒839-0827
久留米市山本町豊田2320-6
TEL 51-7064 FAX 51-7065 (古賀)
印刷 千年屋印刷
TEL 43-2400 FAX 43-2408